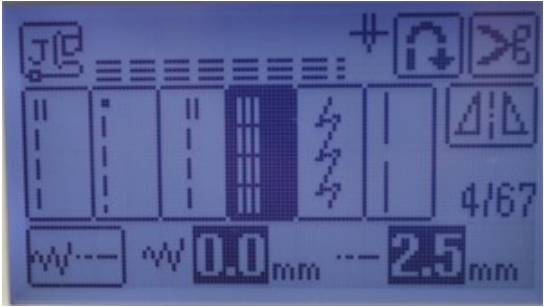
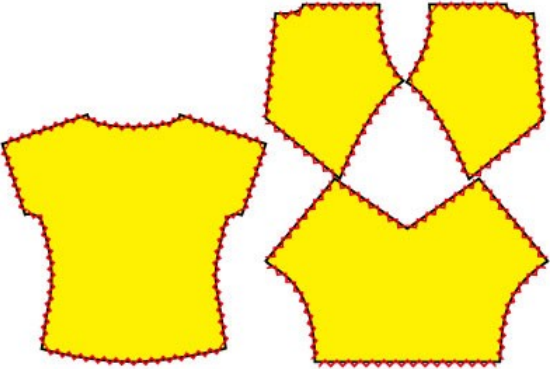
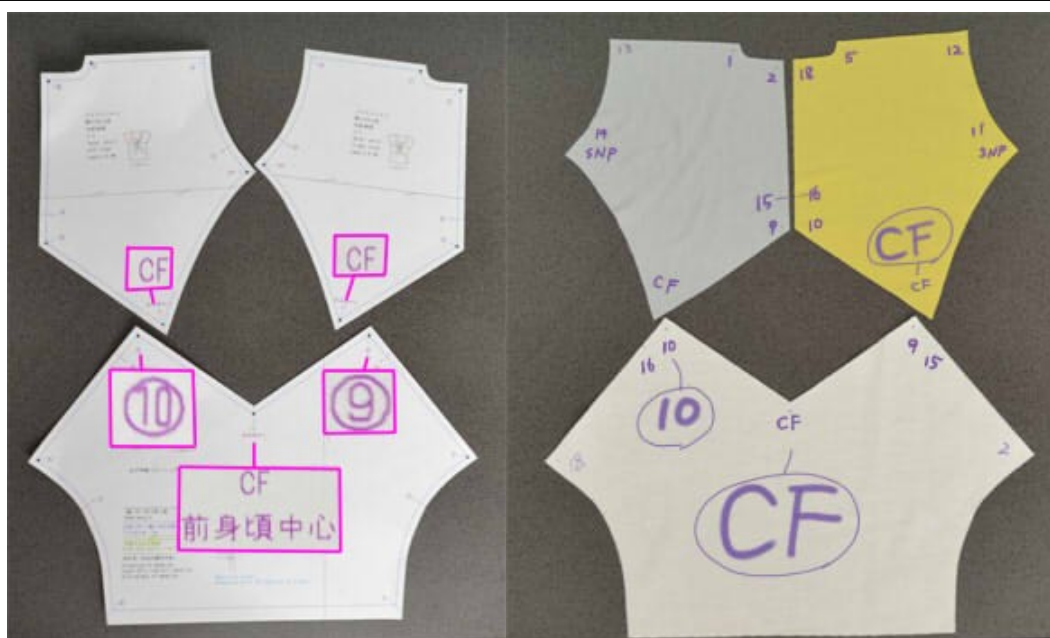
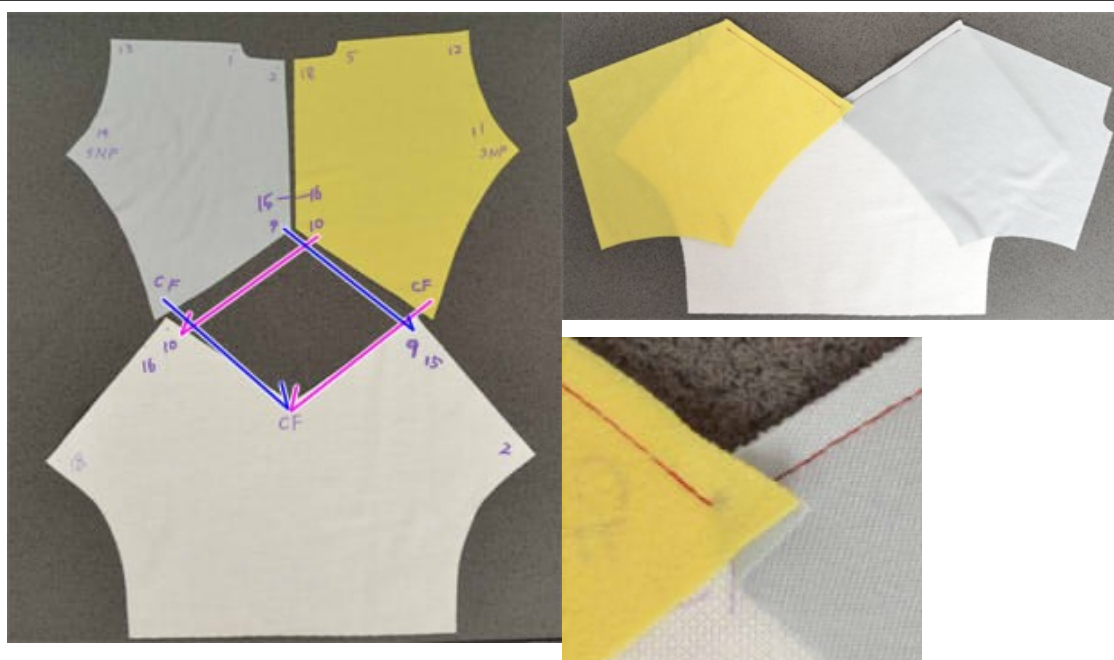


が裏 表	ニット地は生地自体に伸縮のあるものが多いので、糸も伸縮のある生地を利用すると良いと思います。
	よく伸びるニットの縫い方 普通の縫い方だと糸が切れるので ニット用のレジロン糸を購入してください。 図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めにして縫ってください。 これだとかなりの伸縮でも耐えます。 あまり伸びないTシャツ生地だと右隣の雷状の伸縮縫いという機能が使えればこちらを使うといいですよ。
	後身頃のえり部分(裏)に伸び止めテープか、1 cm程度に切った接着芯をアイロンで貼ってください。
	ほつれ止めをしてください。 ニットのほつれ止めは左のように点線のジグザグを使います。
	ニットは縫っているとどんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、べろべろに伸びたりします。 そこで細かい番手の紙やすりを帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。 ※一緒に縫わないように注意。
	後えりに伸びないように細く切った接着芯かのびどめテープを貼ってください。



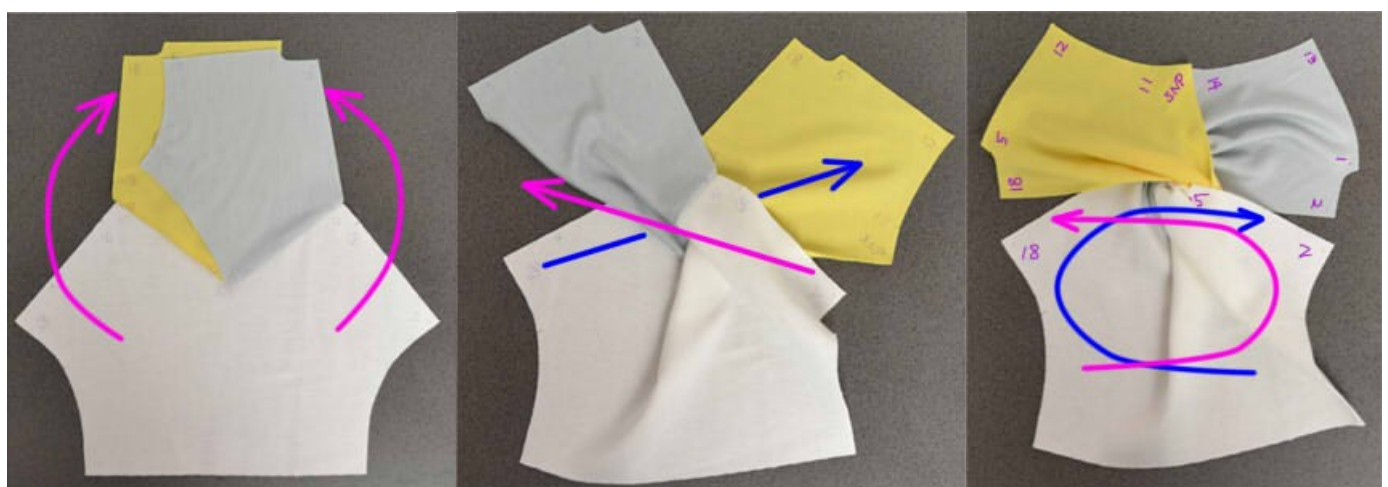
ねじるので縫い合わせの位置が分かりにくくなりやすいので、型紙に書いてある数字やマークを消えるチャコペンなどで縫い代に写しておくとう分かりやすいですよ

※図は写真で見やすいように大きめに書いてます



中同士が表になるように重ねて縫い代1cmで縫ってください。

下の生地 of 縫い代を縫いこまないようによけて縫ってください。



胸の部分を上に起こしねじります。

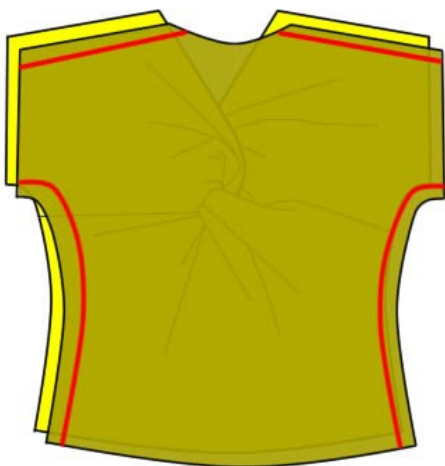


型紙で言うところの15と18 16と18の間を縫ってください。

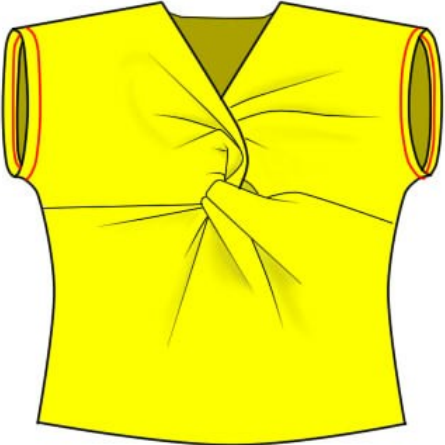
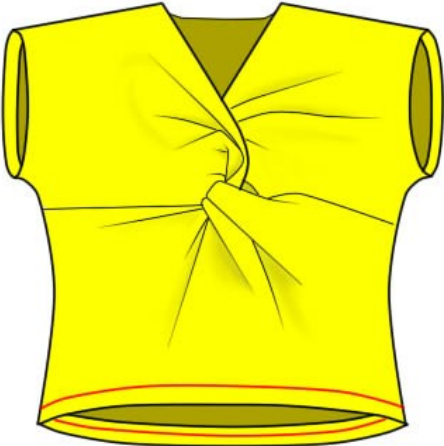
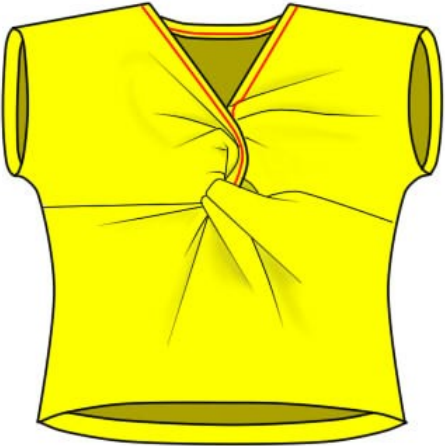
生地を書いておくと、数字同士を合わせて縫うので分かりやすいと思います。



起こしてください。



前身頃と後身頃を内側が表になるように重ねて肩と脇を縫ってください

	そでの縫い代を2 cm内側に折って1.5 cmの所を縫ってください。
	すその縫い代を2 cm内側に折ってください。 1. 5cmの所を縫ってください。
  首周りの縫い代を内側に1 cm折って縫ってください。 ねじった部分は引き出しせるので、引っ張り出して縫ってください	

必要な道具

ニット ニット糸 接着芯もしくは伸び止めテープ

伸縮のあるニット生地を使用してください。

スムースやフライスと天竺かかれたものをお選びください。

ニットは縫っている最中にのびやすいので、縫いあがったところがふよふよと波打つように伸びてしまうものもあります。

えりやすそなど伸びて波打って欲しくない場所には1cm程度に切った接着芯を切ったあとに貼っておくと型崩れせず綺麗に仕上がります